# 1.　とりあえず試してみる

　JuseOffice(ジュース・オフィス)を試す方法を記します。

　この名前は、Japanese use Office のつもりです。

## (1)　ファイルのダウンロードとサンプルスクリプトの実行

　JuseOffice01.zipをダウンロードして解凍します。

　すると、次のファイルやフォルダが出てきます。

* JuseOffice.vbs: MS-Officeに関連するサブルーチン、関数などを定義したVBScript
* sample01.wsf: Excelを動かすための簡単なサンプルスクリプト
* sample02.wsf: Wordを動かすための簡単なサンプルスクリプト
* juse(フォルダ): JuseOffice関連ファイル一式が入っている

　サンプルスクリプトは、Explorer上で選択してエンターキーを押せば実行できます。

　sample01.wsf を実行すると Excelファイルが作成されます。

　sample02.wsf を実行すれば Wordファイルができます。

　サンプルスクリプトの拡張子が vbs でなく wsf になっていますが、wsfといっても中身は VBScript です。

　VBScriptには他のスクリプトファイルを取り込む機構が用意されていないのでwsfにして JuseOffice.vbs を取り込んでいます。

## (2)　sample01.wsf の中身(エクセルを動かす)

　sample01.wsf の中身は下のとおり。

<job><script language="VBScript" src="JuseOffice.vbs"/>  
<script language="VBScript">  
[ワークブックを開く] "sample01.xlsx"  
[ワークシート].Range("A1").Value = "Hello"  
[ワークブックを保存]  
[エクセルを終了]  
</Script></job>

　1～2行目、および最終行は wsfの「おまじない」です。

　スクリプトの本体は 3～6行目の4行です。

　sample01.xls というワークブックを開いて、ワークシートの A1セルに Hello を書き込みます。そしてワークブックを保存したうえでエクセルを終了です。

　「おまじない」の部分の意味は下のとおり。

* 1行目: JuseOffice.vbs を取り込む。
* 2行目: 「これから書くのは VBScript ですよ」という宣言。
* 最終行: 「これでスクリプトを終わります」という宣言。

## (3)　sample02.wsf の中身(ワードを動かす)

　sample02.wsf の中身は下のとおり。

　1～2行目、および最終行は sample01.wsf と同じです。

<job><script language="VBScript" src="JuseOffice.vbs"/>  
<script language="VBScript">  
[ドキュメントを開く] "sample02.docx"  
[ドキュメント].Range(0, 0).Text = "Hello"  
[ドキュメントを保存]  
[ワードを終了]  
</Script></job>

　ワードのドキュメント sample02.docx を開いてから文書の先頭に Hello を書き込んでドキュメントを保存して終了しています。

　Hello を書き込む部分は、下のように書く方が正統派かもしれません。

[ドキュメント].Paragraphs(1).Range.Text = "Hello"